

PROJECTOR SOLUTIONS



# Case Study

プロジェクター4台で実現する  
 匠巻のプロジェクションマッピングで  
 ヴァチカン教皇庁図書館の全容に迫る



## プロジェクションマッピング

導入機種

WUX400ST  
4台

小石川ビル

### 凸版印刷株式会社 様

情報・文化の担い手として、ポスターやカタログ、書籍といった印刷の枠を超えたトータルソリューションを展開しています。

- URL : <http://www.toppan.co.jp>
- 本社 : 東京都千代田区神田和泉町1番地
- 創業 : 明治33年(1900年)
- 資本金 : 104,986百万円
- 売上高 : 781,521百万円
- 従業員数 : 単体 8,900名 / 連結 48,999名
- 事業内容 : 「情報コミュニケーション事業分野」、  
「生活・産業事業分野」および  
「エレクトロニクス事業分野」の  
3分野にわたる幅広い事業活動を展開

※2015年3月現在



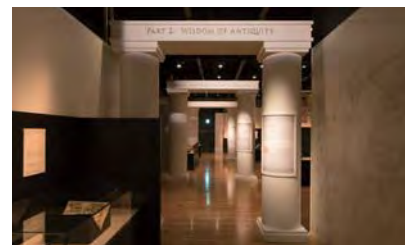
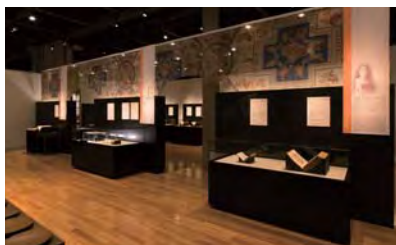
### 印刷博物館

凸版印刷が100周年記念事業の一環として開設した博物館。これまで人類の発展に大きく貢献してきた印刷の役割や意義を伝えるとともに、コミュニケーションメディアとしての新たな可能性を模索するための場として、ポスターやチラシ、書籍など、古今東西の貴重な印刷物をバラエティ豊かに収蔵・展示しています。

# ヴァチカン教皇庁図書館展Ⅱ 書物がひらくルネサンス

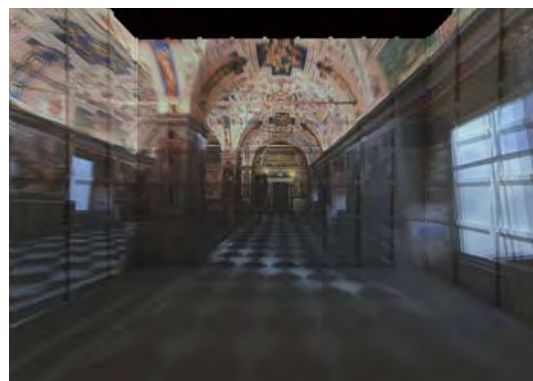


2015年4月25日から7月12日まで印刷博物館で開催された「ヴァチカン教皇庁図書館展Ⅱ 書物がひらくルネサンス」は、2002年の「ヴァチカン教皇庁図書館展」につづく第二弾。ヴァチカン教皇庁図書館の精髓の一端を紹介するものとして、世界に類を見ない貴重書を多数所蔵する同図書館から貸し出された計21点の中世写本、初期刊本、地図、書簡を含む、計69点の歴史的資料が展示されました。



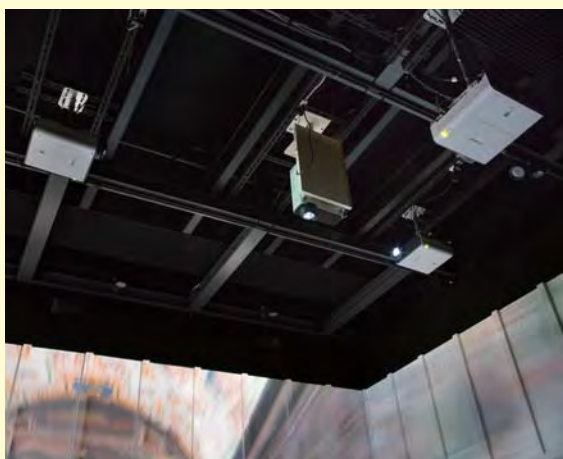
## 五百年の歴史を最新の映像技術で再現

一般には公開されていないヴァチカン教皇庁図書館。その五百年を越える成り立ちを、最新のデジタル映像技術で振り返ったのが、今回のプロジェクションマッピングです。同館の歴史を追体験し、人間と書物のつながりを改めて知ることができる貴重な機会として、来場者の方々に大変好評を集めました。



## キヤノン製プロジェクターが選ばれた理由

導入機種 WUX400ST×4台



プロジェクションマッピングの設置にあたり、機器選定の一番のポイントとなったのは、目にする機会の少ない図書館の全貌をいかに美しくリアルに再現できるか。凸版印刷のご担当者さまによれば、レンズへの信頼性はもとより、限られたスペースでも使える小型の機器で、至近距離からこれだけの大画面が出せるものとなると、当社の製品以外に選択肢がなかったとのこと。その他、レンズシフト機能や4点調整の機能が付いている点も大きく評価されての選定であり、長い展示期間中、メンテナンスフリーだったことも非常に好評でした。

高輝度4000lm・高画質WUXGA対応  
ハイレンズシフト機能を搭載した短焦点プロジェクター

- 短焦点モデル
- WUXGA対応反射型液晶パネル(LCOS)
- 高輝度4,000ルーメン、高コントラスト比2000:1
- 最大75%のレンズシフト量を実現
- 4点キーストーン補正で画像の四隅を個別に調整



明るさ 解像度(リアル対応)

4,000lm

WUXGA

※掲載の写真(凸版印刷株式会社様小石川ビル除く)はCANON EOS 5Dで撮影しました。